

長野市おひざで絵本事業 絵本選定委員会 会議要旨

【日 時】 令和8年8月20日（木） 午前10時から12時まで

【場 所】 市役所第一庁舎4階 教育委員会室

【出席者】 委 員 伊藤直子委員 西澤広美委員 萩原元子委員 丸田ますみ委員
宮入静委員 若狭知子委員 渡邊望委員

事務局 前島卓教育次長

藤原慶治家庭・地域学びの課長

寺島達也家庭・地域学びの課長補佐

石坂三由里家庭・地域学びの課係長

酒井静江家庭・地域学びの課主査

相澤あずさ長野図書館係長

佐藤文香長野図書館司書

青木沙耶香南部図書館主査

村松志保南部図書館司書

黒河内みよ信州新町保育園長

【主な内容】

協議事項

(1) おひざで絵本事業について

～事務局より説明～

（意見・質問なし）

(2) 絵本の選定について

～事務局より説明～

（意見・質問なし）

『推薦絵本について』

委員長	「いないいないばあ」と「くだもの」を残すか、残さないのかということから議論を進めていきたい。入れ替えるのは1冊なので、どちらを残すのか、両方残すのか、ご意見をいただきたい。
委員	「くだもの」は食べ物の好き嫌いやアレルギーの問題もある。「いないいないばあ」は万人受けする。
委員長	特に最近、アレルギーは保育園でも問題となっている。
委員	「いないいないばあ」は残したい。「くだもの」は、食べたことのないものが絵本の中にあると、憧れはあるが、ピンとこないかもしれないので、外すとすれば「くだもの」が適当である。
委員	「くだもの」は残したい。

委員長	もし省くのであれば「くだもの」という意見と残したいという意見、両方ある。あの見せ方は独特で、「はい、どうぞ」と子どもの方に向かってくる魅力がある。だからといって、他の絵本が魅力的ではないわけではない。 「いないいないばあ」と「くだもの」に関しては、後にまわして、今回、3人の委員から推薦があった3冊のうちどれかを入れるのか、入れないのかを話し合いたい。入れる絵本があればどれと入れ替えるのかの議論のときに、今の「くだもの」「いないいないばあ」の話に戻っていきたい。 推薦いただいた絵本の紹介をお願いします。
委員①	「どーこかな」という絵本。作者は「おせんべやけたかな」の絵を描いたこがようこさんで、わらべ歌や、赤ちゃんの絵本や紙芝居、語りかけを研究されている方である。 7、8か月から1歳であれば、語りかけよりも一緒に遊べる形の絵本の方がよいと考え、選んだ。この中でりんちゃんという名前が出てくるが、ご自分のお子さんの名前に変えて語りかければ、お子さんにとっても愛情を感じられる。ページによってピンクと黄色とブルーと、とても優しい色遣いになっていて赤ちゃんの目にも優しいと思う。 今物価が上がってきていて、1,000円以内の予算とのことだが、1,200円のものを選んだ。10版にもなっており、冊数的にも問題ないと思われる。
委員②	育児の基本は抱っこであることから、「だっこ」という本を選んだ。この事業のねらいにもある。色々なだっこの仕方が載っているので、いずれはまねっこしながら、こんなだっこもできる。遊びながら取り組むことで飽きずに楽しめると考え、選んだ。
委員③	幼稚園・保育園での読み聞かせで好評なのが「かんかんかん」である。真っ黒な表紙なのでどうかと思われるが、1歳をすぎると、この踏切の「カンカンカンカン」という音が好きで、色々な電車が出てくる。 写真絵本も1冊入っていてよいと考え、選んだ。最後のページに対する子どもたちの食いつきがよくて、ここに象さんがいるとか、熊さんとか。大人が感じていることと子どもが見る・感じるものは同一ではないということを発見してくれた絵本なので、こうした本にも出会ってほしいということで選んだ。
委員	「かんかんかん」だが、令和4年のこの会議で候補に上がったことがある。「かんかんかん」は決選投票まで残っていたが、最終的には推薦に上

	がっていなかった「でんしゃくるかな」が選ばれた。表紙の黒い色があまりよくないのではという意見があった。「でんしゃくるかな」は白ベースの絵本である。「かんかんかん」にそういう経緯があったことだけお伝えしておく。
委員	絵本の予算が1,000円程度というのは厳しい。福音館の絵本も値上がりした。長野市の財政が厳しいことは理解しているが、何とかならないか。
委員長	予算については改めてご検討いただく。「かんかんかん」は、長野市にはあちこち踏切があるので身近に感じる。「だっこ」はお父さんが出てくる絵本である。お父さんは以前よりもどんどん子育て参加が増えているとはいえ、こういう本があると、子どもと関わるきっかけ作りになるかと思う。ひとり親家庭への配慮等も必要かもしれないが、当人が選ばなければよいし、おじいちゃんおばあちゃんに変えて読んだりできればよいかと思う。
委員	3冊の中で選ぶとすれば「だっこ」が適当である。お父さんもお母さんも、みんな参加型で、具体的にこういうだっこということがわかるので、楽しく家族で遊ぶことができる。ひとり親家庭のこともあるが、選ばなければよいと思う。
委員	その3冊の中で一番斬新だと思うのは「かんかんかん」である。大人の見ると子どもが見る・感じるものは同一ではないと思う。黒の背景だからこそ、写真が生き生きとしていて、書店に並んでいたら、興味を持って手に取るのが「かんかんかん」だと思う。写真絵本なので今の子どもたちはYouTubeの映像を見る感覚で惹かれると思われる。 あとの2冊はお母さんなり、保育者が、子どもの発育や成長を促す点でよい本だと思う。「だっこ」については、抱っこしてあげることで子どもは安心であるし、「どーこかな」は顔のアップになっているので顔のいろんな部分を覚えるのによい本だと思う。
委員	予算の上限はどのくらいか。
事務局	近年の物価の上昇もあるが、委員の皆様が選ばれる本については、金額を気にせず選んでいただきたい。
委員	自分の所属団体でも「どーこかな」は候補として挙がったが、金額が高いため却下になった。金額がもう少し上がれば選択肢も増える。
委員	税込み1,000円以内は難しい。今回は問題提起として1,200円の本を候補として挙げた。
委員	親子の触れ合いを大切にしてほしいので、わらべ歌も1つ入れたい。わらべ歌の絵本も検討したが、1,200円から1,300円程度になってしまう。

委員	「おせんべやけたかな」は最後のページに譜面が掲載されている。読み方を伝えることも重要である。
委員長	「どーこかな」や「だっこ」は触れ合い方も伝えられる絵本だと思う。「どーこかな」、「だっこ」は親子との触れ合いという点、「かんかんかん」は子どもの発語を促すという点、その視点で考えていけたらよいと思う。
委員	昨年、ある委員が、ひとり親家庭が多いという話をしていた際、あえていない親が登場する本を紹介する場を設けることで、本を通じてお父さんというものを知ることができると話していた。
委員	ひとり親家庭について、本でいない親の存在を学ぶとか、当人が選ばなければよいといった意見もあったが、こちらの意図しないところで自然に傷つくこともあると思う。せっきくのこの事業がきっかけで傷つく人がいることは懸念される。
委員長	昨年、選ばれそうになった絵本の表紙が熊の絵で、昨年のちょうどこの時期、人身被害もあり、市として熊の表紙はどうかという話になって、取り止めになったという経緯があった。5冊を実際開いて選ぶ際に、いろいろフラッシュバックして不快に感じる人もいる。せっきくのおひざで絵本事業で、ワクワクして帰ってほしいのに、却って申し訳ない結果になる可能性はある。選ばなくても見るだけで不快に感じる方もいるかもしれない。 1つは今お話のあった、ひとり親家庭で、いない親の存在を考えると、市として推薦として配布するには懸念があるかもしれないので、「だっこ」は見送ることが適当かもしれない。 もし「かんかんかん」を採用するのであれば、5冊の中に電車が2冊は多いので、「かんかんかん」を入れるのであれば、入れ替えるのは「でんしゃくるかな」だと思う。 「どーこかな」は、入れ替えるなら「おせんべやけたかな」という提案を推薦者からいただいているが、「おせんべやけたかな」と入れ替えることが適当かどうか。先ほど最初に議論があった「くだもの」と、その直接触れ合い遊び的なものを残すのであれば、「おせんべやけたかな」を残して「どーこかな」を入れ、「くだもの」と入れ替えるような形が、配布の目的やねらいを考えると適当ではないかと考えた。
委員	「くだもの」と入れ替えるのは、違うと思う。
委員	「おせんべやけたかな」と「どーこかな」の2冊を選べば、同じこがようこさんが2冊になり、偏ってしまう。

委員	「くだもの」は残したい。作者の平山さんは長野県にゆかりのある方ということと絵の素敵さを色々なお母さんたちに紹介している。みずみずしくて美味しそうだとか、それを、今実際そこにあるかのように見えていることでお母さんも子どもも楽しんでもらいたい。
委員長	作者のことも考えると「どーこかな」と「おせんべいやけたかな」で入れ替えるか、「でんしゃくるかな」と「かんかんかん」を入れ替えるか。もしくは、変更しないか。その3点でよいか。
委員	わらべ歌がなくなるのはどうなのか。
委員	こがようこさんもわらべ歌をととても研究されている方である。文もリズムカルである。
委員	「おせんべいやけたかな」は絵もすばらしく、見ているだけでも楽しい。
委員	提案の3冊の中であれば、「かんかんかん」と「でんしゃくるかな」の入れ替えが適当である。
委員	先ほど言った通り、「でんしゃくるかな」が急遽差し替わった経緯を目の当たりにしていることもあり、映像に近い絵本となると絵本である必要性が薄れるため、写真ではなくあえて絵を用いた絵本の方がよい。
委員	「かんかんかん」が今の時代の子どもたちに響くことは理解できるが、この事業の立ち上げの思いを考慮したい。赤ちゃんはまだ視力も発達段階にあるため、やさしい色合いのものを選ぶ方がよいと思われる。
委員	「かんかんかん」もよい絵本だが、ファーストブックではなく、次の段階の絵本ではないかと思われる。
委員長	この先、放っておいても子どもたちは動画には行き着いていくと思うが、静止画の大切さ、写真の良さもあると思う。1枚の写真からイメージを膨らませていける写真絵本の良さもある。デジタルの入口というよりは写真の良さとしてのとらえ方でもよいかと思う。しかし、あえて写真よりは絵の方がよいという意見もある。「おせんべいやけたかな」を残すか、「どーこかな」と入れ替えるか。
委員	乗り物関係がもう1冊あってもよいかと思う。
委員	男の子のいる家庭で、好きな乗り物の本がないと感じることもあり得る。男の子だからといって、全員が電車好きとは限らないが。
委員長	乗り物関係は一定数の人気がある。「おせんべいやけたかな」と「どーこかな」では、どちらを残すか。
委員	わらべ歌を1冊入れたいという気持ちはある。歌い方をきちんと伝えていくことも必要である。
委員	最近のわらべ歌の絵本は楽譜が載っている。

委員長	先ほど委員から「おせんべやけたかな」を残したいという意見と今年も変えないという意見もある。
委員	今年も変わらないとなると、来年度は必ず絵本を替えなければならないのではないか。
委員長	来年は「くだもの」や「いないいないばあ」に代わる本を推薦していただきたい。今年変えないのであれば、来年はこのメンバーで新しい本を入れたいと考える。
委員	「おせんべやけたかな」はとてもよい本であり、それに代わるものを選ぶのは難しい。
委員長	読み方を伝える必要があるか、読み方を知らない人でも手に取り、親子で触れ合って遊べる方がよいか。
委員	わらべ歌の本は残しておきたい。
委員長	今年は、今までと同じ本にするのであれば、来年は変更できるようにしたい。議論を重ねた結果、今の5冊ということで進めたいが、よろしいか。
一同	はい。
委員長	皆さんの承認をいただけたということで、今年度は新たに变えることはせずに、来年度も同じ5冊ということで進めていきたい。 ありがとうございました。

事務局からの説明

あいさつ

閉会